



スイくん

水中遺跡が物語る 人々の暮らし

～古代の食・信仰・災害を探る旅～



葛籠尾崎湖底遺跡（竹生島方面から葛籠尾崎を望む）

プロローグ

琵琶湖北端にある長浜市葛籠尾崎湖底遺跡は、日本の水中考古学の先駆けとなった遺跡です。大正13（1913）年の発見以来、様々な調査が実施されており、葛籠尾崎周辺の土器の分布や埋没状況、琵琶湖の古環境等の調査が進められています。

全国にある水中遺跡の中でも約70mという深さから土器などがみつかることはとても珍しく、地震による集落の陥没説・湖上交通に伴う落下説・祭祀による投棄説など様々な説があり、未だ解明されていない謎めいた遺跡です。

水中遺跡は琵琶湖を有する滋賀県の特徴ある埋蔵文化財です。琵琶湖には現在まで78ヶ所の水中遺跡が確認されています。旧石器時代以来の集落・水田・祭祀・災害の痕跡を残す様々な遺跡があります。
まず、水中遺跡がもつ特色と水中調査の方法を紹介します。

II 琵琶湖の湖底に刻まれた湖成鉄



長浜市葛籠尾崎湖底遺跡の出土 土師器 集合写真



表面（湖成鉄 付着無し）



裏面（湖成鉄 付着面）

琵琶湖の水中遺跡の特徴に「湖成鉄」が挙げられます。琵琶湖の水には鉄分が含まれていて、水に触れている部分に鉄分が付着し、湖底部分には鉄分が付着しない特徴があります。また、土器の時代が古いと厚く、新しいと薄く付きます。

このように、湖成鉄の付き方で土器がどのように湖底に埋まっていたかが分かり、遺跡がなぜ湖底にあるのか解明するヒントになります。

II 水中調査 最前線 ～琵琶湖を潜る・掘る・探る～



高島市外ヶ浜遺跡の潜水作業状況

水中遺跡の調査は当初、潜水土が水を高圧・高速で噴射する機械で掘削し、遺跡の状況を写真・図面等で記録していました。

その後、高島市の森浜遺跡^{もりはま いせき}で水中遺跡としては初の広範囲の発掘調査が行われました。調査区の周囲に鋼鉄製の細長い板を打ち込み、24時間排水し陸上化した状況で調査が行われました。



高島市森浜遺跡の調査状況



水中ロボット（いであ株式会社所有）



長浜市葛籠尾崎湖底遺跡 土器の埋没状況
(立命館大学 矢野健一先生の調査時撮影)

最近では、水中ロボットを使った調査が行われています。葛籠尾崎湖底遺跡の水深約70m地点で土器がみつき、土器の種類、分布場所が正確に記録できるようになりました。

高島市は琵琶湖北西部にあり、水中遺跡は14か所存在しています。

その中でも、弥生時代前期～古墳時代前期の集落跡である森浜遺跡・針江浜遺跡に焦点を当て、テーマ別に人々のくらしを紹介していきます。



琵琶湖の湖底で息づく 古代の味わい ～食に関わること～



森浜遺跡 木包丁出土状況
(全長16cm、幅14.4cm)

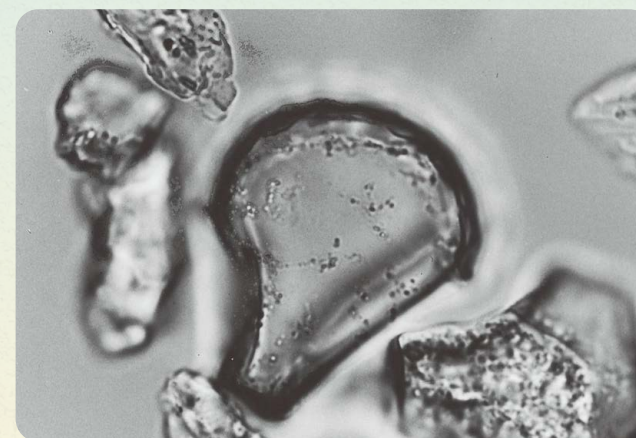
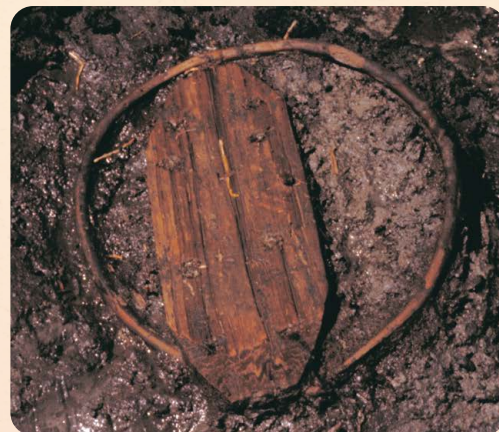


針江浜遺跡
畦道・耕作痕

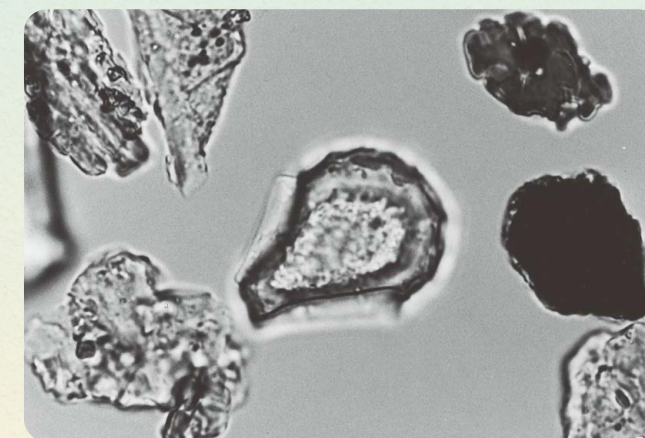


田畑の間を通る畦道、畑を耕した跡、稲を刈る道具である木の包丁、田植えで使う田下駄などの農具類がみつかります。今は、山の麓や平地で米作りをしています。昔の人々は浜辺でお米を作って生きていました。

森浜遺跡 田下駄出土状況
(足板全長39.2cm、幅14.5cm)



針江浜遺跡 イネのプラントオパール



イネのプラントオパールです。プラントオパールは植物の中にできるガラスのような粒で腐ることがないので何千年も土中に残ります。これが発見されたことにより、科学的な分析からもお米作りを行っていたことが証明されました。



お米以外にクルミ・マタタビ・ノブドウなどの種子が出土しています。水辺にある遺跡ですが、周りの山々の恵みも食料として利用していました。



森浜遺跡 植物種子

食べ物の調理・保管には壺形、甕形、鉢形の土器等が使われました。土器の底部に多数の穴が残されており、お米を蒸して食べていたようです。

針江浜遺跡 土器類



Ⅱ 舟形代と琴が語る祭祀の記憶



森浜遺跡 舟形代
(全長48.5cm、最大幅15.2cm)

水辺での祭祀道具である琴と舟形代です。琴は弦楽器の1つで弦をかける突起付きの胴部がみついています。舟の両端は尖っておらず、木をくりぬいて作られています。

琴は音色で禍を追い払い、舟形代は舟に病や禍をのせて水に流す目的で使われました。



森浜遺跡 琴出土状況▶
(全長50cm以上、最大幅15.2cm以上)

Ⅱ 古代の住まいを探る



針江浜遺跡 竪穴建物跡等



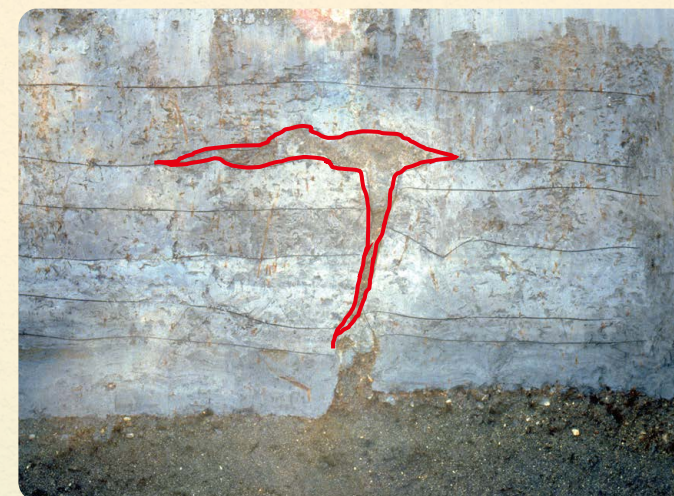
森浜遺跡 木製組物

人々は湖岸沿いの高まりに竪穴建物等を建てて暮らしていました。竪穴建物は地面に穴を掘り、内側に柱を立てて草や木で屋根をかけて作ります。これとは別に、長さ3m程の木材を組み合わせた組物も出土しています。これは屋根葺材をとりつけるための下地であり、屋根をもつ建物が存在していたようです。

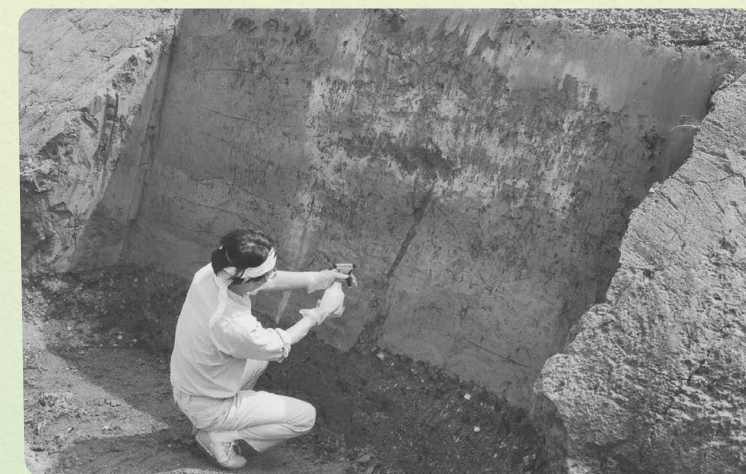
Ⅱ 噴砂と倒木が語る湖底の大震災



針江浜遺跡 噴砂による地割れ



針江浜遺跡 噴砂の断面



針江浜遺跡 土層断面剥取 作業状況

弥生時代中期のM7.5の大地震による液状化現象の痕跡です。液状化現象は地中の土砂・水分が噴砂となり地上に吹き出す現象で白色が噴砂の跡です。人々が災害と向き合ったことを物語る重要な発見です。

噴砂の断面は特殊な液体を使って薄く剥ぎ取られ、実物保存されることになりました。

地震の痕跡を示すものとして「埋没林」もみついています。木の種類はヤナギで湖岸沿いにはヤナギの木が生えていたようです。

湖岸とは逆方向に倒れていて、地震の液状化もしくは琵琶湖の津波の影響が考えられています。



針江浜遺跡 倒れたヤナギの木



竹生島



白髭神社



多景島

エピローグ

水中遺跡の中には、琵琶湖の湖岸に存在した集落の水没伝承を物語る遺跡があります。「千軒伝承」と呼ばれており、千軒は中世以降に栄えた集落・港を意味しています。高島市にも三ツ矢千軒遺跡、伝三ツ矢千軒遺跡があります。江戸時代の絵図に集落の場所が記載されていることもあり、文献資料を参考にしながら伝承を確かめる調査も行われています。

水中遺跡は湖辺に住んだ人々のくらしを語り、未だ解明されていない事が多い文化遺産です。みなさんも是非謎めいた水中遺跡の魅力に触れてみてください。

滋賀県文化財保護課

令和7年10月

Tel : 077-528-4674
E-mail : kinenbutsu@pref.shiga.lg.jp